令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　住之江区

学 校 名　大阪市立清江小学校

学校長名　二俣　峰雄

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和６年４月18日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・大阪市立清江小学校では、第６学年　５９名

学校名　大阪市立清江小学校

令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率では、国語科・算数科において、大阪市や全国と比べて、約8～9．7ポイント低くなっている。平均無解答率では、大阪市や全国と比べて、国語科においては約1～1.9ポイント高く、算数科においても約2.5～3.3ポイント高くなっている。最後まで諦めずに問題にチャレンジする姿勢を身につける必要があることが明らかになった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］
「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が低く、課題がみられる。この領域では、目的や意図に応じて話したり、目的や意図を聞きとり理解したりすることが難しい。普段の授業の中で「話すこと・聞くこと」の機会を増やし、「正確に話す・聞く」指導の徹底を図る必要がある。
［算数］
「図形」の領域では大阪市・全国平均を下回っているが、他の領域と比べると差が小さい。「変化と関係」の領域で特に低く、課題がみられる。日常生活の中で具体的な場面に対応させながら割合について理解できるように指導することが大切である。

質問調査より

(1)「朝食を毎日食べている」(2)「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」という規則正しい生活を送ることができているかについて、肯定的な回答は大阪市・全国平均を上回っており、家庭との連携の成果がみられる。(10)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をする児童の割合は大阪市・全国平均を上回っている。日々の授業の中で自己肯定感を高めるための活動を多く取り入れ、豊かな心の育成に努めてきた成果である。(12)「人が困っているときは、進んで助けていますか」(15)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対し最も肯定的な回答をする児童の割合が大阪市・全国平均を上回っており、規範意識の高さがうかがえる。

今後の取組(アクションプラン)

研究教科を算数科に設定し、研究主題を「主体的に学習活動に取り組み、楽しく学び合う子どもを育てる」とし、楽しく学び合いながら自分の考えを表現できる子どもの育成に努めている。また、学力向上支援チーム事業（重点支援）を活用し、指導方法の工夫を行ったり、放課後学習を行ったりすることにより、基礎学力の定着に努めている。さらに、教育環境の充実に向けて「navima」等の一人一台学習者用端末のソフトを効果的に活用し、意欲的に学習できるようにしたり、学習データ配信等を積極的に利用したりして、基礎的・基本的内容の定着を図っている。